

- 1 だいいくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは三ぎようめに書き、文しよは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さけて書きはじめ、だんらくしよにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそらえましよう。

( 月 日 曜日 )

思い出の太忠岳

永田小学校 六年 田中美海

「つかれた。」

今、私は太忠岳に登っている。太忠岳に登るのは二回目だったが、今は夏休みだから、体力もおちっていた。この登山は、夏休みにおちた体力をもどすために、登ったのだ。

太忠岳に登ると決まっていたのは登る前日だった。「夏休みだし、体力もおちてるだろうか登ろう。」ということになったのだ。じっさ

りにたしかに体力もおちていったし、太忠岳は一回登ったこともあるし、楽勝でしようと思っ

た。当日、雨が心配されていた。天気予報では雨で、実際に山に雲もかかっていた。もしも

のためを防がん着と登山用のカッパを持って山にむかっていた。入口はくもっていた。夏なの

に少し寒かった。登りはじめはまわりの景色も楽しんで、鹿やさるをさがしたりして登

っていた。と中には、おち葉の中にひっそりと

- 4 、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいまくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは一ぎようめに書き、文しよは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくごとぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

( ) 月 日 曜日

た た ず ぶ き の こ を 発 見 し た 。 そ の き の こ は と  
 て も 小 さ く て 、 気 付 か な け れ ば ふ ん で し ま い  
 そ う に な る く ら い な の に 、 生 命 力 を 感 じ た 。  
 そ の 時 私 は 思 っ た 。 こ の 木 林 に す ぶ 、 鹿 や さ る  
 は も ち ろ ん 、 こ け や 木 、 水 な ど か ら 、 と て も  
 強 い 生 命 力 を 感 じ た 。 私 は こ の 自 然 が い つ ま  
 で も 続 い て ほ し い と 思 っ た 。  
 登 っ て 三 時 間 が た っ た ころ か ら だ ん だ ん き  
 っ く な っ て き た 。 一 回 目 に 登 っ た 時 は こ ん な  
 に っ か れ な か っ た 。 こ の 時 、 夏 休 み に 運 動 し  
 と け ば よ か っ た と 後 か い し た 。 そ う 思 っ て る  
 う ち に 、 ま ゆ り が 少 し 明 る く な っ た 。 と 思 っ  
 た ら 、 そ こ に は ア ス レ チ ッ ク の よ う な 、 ロ ー  
 プ を っ か っ て 岩 を 登 る と ころ が あ っ た の だ 。  
 一 回 目 の 時 は 楽 し か っ た が 、 二 回 目 の 時 は ち  
 が っ た 。 っ か れ て 足 も 重 か っ た が あ と 少 し だ  
 と 思 い 、 必 死 で 登 っ た 。 そ の 後 、 何 回 か ロ ー  
 プ を 登 る と ころ が あ っ た が 、 そ こ も ぶ じ 登 り  
 と う と う 最 後 の 難 所 が 来 た 。 三 メ ー ト ル 以 上  
 の 岩 を ロ ー プ を っ か っ て 登 る の だ 。 足 が す く

- 4 、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいてもくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは一きようめに書き、文しよは三きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくしよにきようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのきようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

( ) 月 日 曜日

んだが、そこも登りことうとう頂上に着いた。  
 雨を心配していったが、雨がふることもなく、  
 頂上に着いても雨はふっていなかった。それ  
 どころか、晴れていて景色もとてもきれいだ  
 った。そこで、お弁当を食べた。いつも食べ  
 ているより、とてもおいしかった。その岩  
 には、私達だけしかいなく、景色を一人じめ  
 している気分になった。そして、一回目より  
 も達せいの感を感じた。お弁当を食べおゆった  
 後周りの景色を見てみると、きりがかかっ  
 きて、やがて真白の世界が広がった。とて  
 もげんそう的で、きりにつつまれているよう  
 だった。行きは足が重く、歩くのがやっただ  
 ったが、帰りは足がかるくなつた。ゴールす  
 る時は、みんなまで並んでいっせいにゴールし  
 た。ゴールした時には、足がカタカタとわら  
 っていた。この登山は、夏休みのももい  
 思っ出だと思ふ。これからもこの努力する気  
 持ちをわすれずに、何ごとにも挑戦したいと  
 思う。

- 4 と、は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)

